

マイクロアグレッションを考える～豊かにつながるために～

問 人権教育啓発センター ☎80-1080

あなたはこの会話を見てどう感じますか？



日本語が上手ですね。

日本で生まれ育っただけだな。
見た目だけで判断しないでほしい。



部落差別って昔のことでしょ。
今はないよね。

私は今、部落差別に直面
して悩んでいるのに。



女性なのに出世して
すごいですね。

女性が出世するのはすごいことなの？
女性は男性のサポート役？



左側の発言に疑問を感じない人もいれば、モヤモヤしたのを感じた人もいないではないでしょう。言葉の受け取り方は人それぞれ違います。同じ発言でも、うれしいと感じる人もいれば傷つく人もいます。

私たちの発言には、無意識のうちに刷り込まれた思い込みや偏見が表れることがあります。しかし、傷つけることを意図した発言ではないため、受け手は傷ついていることを指摘しづらく、そのため発言者も相手を傷つけていることに気づきにくいのです。これらの発言は、言われたときは我慢できたとしても、繰り返し体験することでダメージが積み重なり、受け手に大きな負担を強いることとなります。

このような日常的な言動の問題を解決していこうと提起されたのが「マイクロアグレッション(自覚なき差別)」という捉え方です。マイクロアグレッションには、上に例示した会話のように、多数派が自覚のないままに、日常的な場面で少数派を差別している一面があります。

人権が尊重される社会のために

私たちは、状況によって誰もが多数派として差別する側にもなれば、少数派として差別される側にもなります。

誰もが傷つかない言葉を使うことは現実的に難しいかもしれませんが、しかし「自分にも無意識の思い込みや偏見がある」と自覚しておくことで、発言前に一度立ち止まったり、会話の後に「今の発言には偏見があったかもしれない」と気づいたりすることにつながります。

相手のことを理解し、お互いの関係性を深めようと努力することが、豊かにつながりやコミュニケーションを生み出していくのではないのでしょうか。その積み重ねを通して、人権が尊重される社会の実現につなげていきましょう。